

公立大学法人福井県立大学 中期目標（第三期）

基本目標

福井県立大学は、1992年の開学以来、「魅力ある大学」「個性ある大学」「開かれた大学」の3つの基本理念に基づき、優秀な人材の輩出や教育研究成果の地域への還元など、地域および産業の振興に貢献してきた。

近年、本格的な人口減少と社会・経済のグローバル化が進む中、県立大学には、地域社会の持続可能性を支える人材育成が求められている。このため、教育・研究活動のフィールドを大学内に留まらず県内全体に広げるなど、新しい形の公立大学として、魅力ある大学づくりを行う。

この基本目標において、特に重点的に取り組む項目は以下のとおりである。

- ・地域をリードする公立大学として、全学において、定員の拡大、学部・学科の新設・再編により、地方創生を担う人材を育成する。
- ・若者に魅力があり、県内外から意欲ある学生が集まる大学となる。
- ・県民の財産として「オープン・ユニバーシティ構想」を定着させ、地域社会や県内企業への貢献を一層進める。

第一 中期目標の期間

中期目標の期間は、2019年4月1日から2025年3月31日までの6年間とする。

第二 教育に関する目標

一 教育の内容に関する目標

- 1 自ら課題を発見し解決する力を養うなど、社会性を有し、地方創生を担う人材を育成する。
- 2 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）および学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、成績評価や卒業認定を適正に実施する。

二 教育実施体制の強化に関する目標

- 1 教育の質の向上を図るため、教育内容・方法等を継続的に検証し、改善を行う。
- 2 県内全大学の学生が福井の産業・文化等を学ぶ「大学連携センター」の活用など、県内高等教育機関と連携し、教育実施体制を強化する。
- 3 実績ある客員教授を招いた講義を実施するなど、国内外の大学、試験研究機関、企業等との連携を強化する。

三 学生の受入れに関する目標

将来の福井を担う人材を育成するため、入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、主体的・積極的に考え、行動する学生の確保に努める。

四 学生への支援に関する目標

- 1 全ての学生が意欲を持って学修に取り組めるよう、良好な環境を整備する。
- 2 産学官連携を強め、実践的な職業観を育むとともに、学生が県内企業の魅力に触れる機会を増やすなど、県内定着に向けた就職支援を充実する。
- 3 充実した学生生活を送れるよう、スポーツ・文化などの学外活動や社会貢献活動への支援を強化する。

第三 研究に関する目標

一 研究水準および研究の成果等に関する目標

- 1 国内外の大学や企業、試験研究機関等との連携を強化するなど、研究水準を向上させる。
- 2 本県独自の様々な地域資源を活かし、世界トップレベルの研究・教育を進める。

二 研究実施体制の強化に関する目標

産業界等のニーズに対応した研究活動を行うため、「地域連携本部」を活用し、研究費の適切な配分や研究環境の改善を行うなど、研究実施体制を強化する。

第四 地域貢献、国際交流等に関する目標

一 地域社会との連携に関する目標

- 1 社会人の学び直し・スキルアップを支援するとともに、講座内容、開催場所の拡充により幅広い年代のリカレント教育を実施する。
- 2 地域社会の課題解決に貢献するため、「地域連携本部」の活動を強化し、自治体や地域との交流、県内企業との共同研究を進める。
- 3 地域や産業の振興に寄与する人材育成と県内定着を促進するため、自治体、県内企業、県内試験研究機関、研究者、専門家等との連携を強化する。
- 4 大学施設を県民へ積極的に開放するとともに、県民が日常的にキャンパスに集い、交流できる拠点として環境整備を行う。

二 グローバル化に関する目標

- 1 グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、留学生の受入れ・派遣を進めるなど、学生の国際的視野を涵養^{かん}する。
- 2 外国人留学生が良好な環境で学修できるよう、各種支援を充実する。

第五 情報発信に関する目標

大学間競争に打ち勝つため、教育・研究の成果や地域との連携などについて、国内外に向けた情報発信を強化し、大学の認知度を向上させる。

第六 業務運営の改善および効率化に関する目標

一 運営体制の改善に関する目標

地域連携や研究支援、国際交流など、専門的な知識・経験を必要とする業務において専門の職員を配置し、教育・研究支援体制を強化する。

二 教育研究組織の見直しに関する目標

時代の変化と地域社会のニーズに対応するため、全学（経済学部、生物資源学部、海洋生物資源学部、看護福祉学部、学術教養センター、地域経済研究所、恐竜学研究所）において、定員の拡大、学部・学科の新設・再編など教育研究組織の見直しを行う。

三 人事の活性化に関する目標

- 1 教育研究能力の向上や地域貢献推進のため、優れた教員の採用・育成を行う。
- 2 教員評価制度について、継続的に検証し改善を行う。

第七 財務内容の改善に関する目標

一 外部研究資金その他の自己収入の増加に関する目標

- 1 施設利用料や授業料等の受益者負担について、社会状況を勘案し、料金の見直しを行う。
- 2 共同研究費、受託研究費、国の競争的研究資金など外部研究資金を獲得するとともに、寄附金の受入れなどにより自己収入を確保する。

二 経費の効率的執行に関する目標

効率的な予算の執行、業務運営の合理化・簡素化により経費を縮減する。

第八 自己点検・評価および当該状況に係る情報の提供に関する目標

中期計画およびその年度計画の達成状況について、大学内部の自己点検・評価を行うとともに、第三者評価（福井県立大学評価委員会の法人評価、認証評価機関の大学評価）の結果を法人運営に反映させる。

また、これらの結果を速やかに公表する。

第九 その他業務運営に関する重要目標

- 1 長寿命化計画に基づく施設・設備の整備などにより、良好な教育研究環境を維持する。
- 2 防災や安全衛生管理のための体制整備など、学生および教職員等の安全を確保する。
- 3 学生の個人情報など、情報漏えいを防ぐため、セキュリティを強化する。